

- I . 日 時 : 2014 年 1 月 30 日 (木) 10 : 30 - 12 : 00
II . 会 場 : JCN 武蔵野三鷹(SC センター4 階 2 会議室)
III. 出席者 :

【番組審議委員】

(順不同・敬称略)

- ・塚本真史
- ・新井正樹
- ・樋爪泰平
- ・河野康之
- ・岡崎昌史
- ・西海真理(代理 : 土方弘子)
- ・見城武秀

【株式会社 JCN 武蔵野三鷹】

- ・妻井英夫(代表取締役社長)
- ・榎本一夫(常務取締役)
- ・八代誠(監査役)
- ・金子俊治(顧問)
- ・山田佐智子(企画・制作部 部長)
- ・岡崎文生(企画・制作部 課長)
- ・上原正嗣(企画・制作部 課長代理)
- ・那須貴文(企画・制作部 主任)

【ジャパンケーブルネット株式会社】

- ・荻野雅也(東京西エリア室室長)

IV. 資料 :

1. 「2013 年度 JCN 武蔵野三鷹 事業概況報告」
2. 「2013 年度 下期放送 本部・エリア番組ラインナップ」
3. 「2013 年度 JCN 武蔵野三鷹 コミュニティチャンネルの取り組み」

V. 議事内容 :

【1】 開会

- ・岡崎文生 企画・制作部 課長より、開会の挨拶

【2】 社長挨拶

妻井英夫 代表取締役社長より挨拶

・2013 年 12 月、JCN は J : COM の子会社となり、今年 4 月に統合予定。JCN 武蔵野三鷹も今後、株主総会など必要な手順を経て、J : COM ブランドへの統一化を進めていく。コミチャンの「地域密着」という視点に関しては、大きな変化は無いと考えており、今後の番組制作の基本としていく。短い時間ではあるが、熱

い議論をお願いする。

【3】 各委員のご挨拶

【4】 平成 25 年度事業概況報告

榎本一夫 常務取締役より、資料 1. 「2013 年度 JCN 武蔵野三鷹 事業概況報告」に沿って報告。

- ・サービス加入状況
- ・JCN スマートテレビの概要
- ・地域貢献・地域連携事業の取組み内容

【5】 平成 25 年度本部・エリア番組について

荻野雅也 東京西エリア室室長より、資料 2. 「2013 年度下期放送 本部・エリア番組ラインナップ」に沿って報告。

- ・「本部」、「エリア」、「局」の 3 体制での番組制作
- ・本部、エリア制作の各番組に関する方針
- ・生活、趣味、志向を勘案すること
- ・地域にクローズアップした番組を制作することで人々の生活を豊かにする
- ・視聴者のニーズを満たした新企画
- ・J : COM との番組交換も実施
- ・防災等地域の関心度が高いイベントから地域との連携強化

【6】 平成 25 年度 局制作番組について

山田佐智子 企画・制作部 部長、上原正嗣 企画・制作部 課長代理より、資料 3. 「2013 年度 JCN 武蔵野三鷹 コミュニティチャンネルの取り組み」に沿って、『より見られるコミチャンへの取組み』について、これまで放送した映像を交えて報告。

- ・「番組」と「地域情報誌」の連携
- ・地域の関心度が高いイベントの生放送(8 月みたか阿波踊りを放送)
- ・防災などの安心安全情報の発信
- ・速報性の強化、より旬の情報を提供
- ・災害などの緊急時の体制強化
- ・視聴者がより知りたい情報を意識した番組制作

【7】 各委員の意見

◆番組制作の方針について

- ・大きな話題、ニュースになると、各民放や新聞社に情報網で勝てない。あえて、大きなニュースは取り上げないなど異なった視点が必要なのではないか。
- ・民放と同じボリュームは取り上げないとしても、地元の身近な話題を取り上げてもらえると視聴者の立場としては嬉しい。
- ・ケーブルテレビは、地域の一員。ケーブルテレビと民放が違うのは、物事を取り上げる距離感(地図でいうと縮図)。すぐに現場にいける機動力、定点カメラなど継続的に取り組める環境など、民放では出来ない距離感を意識して番組づくりに取り組んで欲しい。

【JCN 武蔵野三鷹としての見解】

これまでデイリーニュースで取上げてきた全国的なニュースについては、武蔵野三鷹エリア視聴者への「注意喚起」を目的としている。今後もご指摘の「距離感」を大切に民放とは異なった視点で番組づくりに取り組んでいく。

◆制作体制について

- ・当日午前中に情報提供ができれば、夕方のデイリーニュース生放送に間に合うのか。
- ・ケーブルテレビで日々の地元ニュースが生放送になったのは画期的なことだと思う。街頭テレビなど、その時街にいたら地域ニュースが見られる環境づくりに関しても是非検討していただきたい。
- ・地域では、商業イベントや防災に関するイベントが今後も実施されていく。是非、そういったイベントを積極的に取り上げてほしい。
- ・東日本大震災以降、ケーブルテレビへの期待は大きい。行政との連携など重要なメディアの一つとして PR してほしい。
- ・人材育成、制作体制の強化などにも注力してほしい。
- ・武蔵野市、三鷹市の地域へもっと視点をクローズアップすれば、他から映像を提供して欲しいという声があるかもしれない。映像記録は大事。アーカイブなど地域財産として視聴者や研究者が見られる仕組みを構築してほしい。

【JCN 武蔵野三鷹としての見解】

- ・デイリーニュース生放送の制作体制については、デスク制を採用している。デスク判断のもと、即時性が認められるものは放送する。
- ・ケーブルテレビとしても地域連携を強化しないと生き残れないという危機感がある。体制も踏まえて、いただいたご意見をまとめて番組づくりに活かしていきたい。

以上をもって、平成 25 年度、第十一回番組審議委員会は終了した。